



なぜ尿検査をするの？



当院では受診時に尿検査を実施しています。

主な項目は

・尿アルブミン指数・尿糖・尿ケトン・尿潜血・尿亜硝酸塩です。

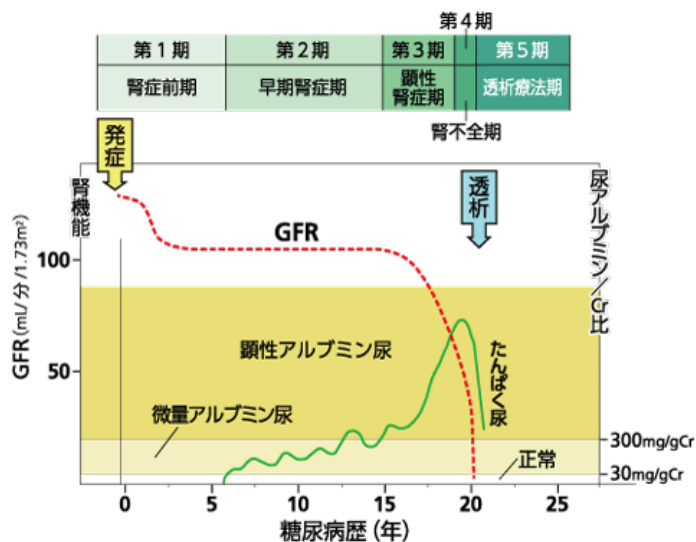
これらの項目は糖尿病、腎臓病、ダイエットの状況だけでなく感染、膀胱、尿管などを調べるのにも役立ちます。

生理中の場合も尿検査は実施できますが、尿潜血など一部項目が使用できない為、検査の意義は薄れます。(尿検査スキップ希望の際はお声掛けください)

尿アルブミン 基準値【30 mg/L 未満】

アルブミンは主に肝臓で作られ、血液中のたんぱく質の 60-70% を占めていますが尿ではほとんど排出されません。腎臓の機能が弱まると老廃物のろ過がうまくいかなくなり尿中にアルブミンが排出されてしまいます。糖尿病が腎臓に影響を与えだすと次第に尿アルブミンが増加していきます。そして、ある時から一気に eGFR が低下し透析に向かっていきます。(前立腺炎、膀胱炎などがあれば一時的に上昇します)

2 型糖尿病性腎症の臨床経過



尿糖 基準値【陰性 - 】

尿中のブドウ糖の量です。血糖が一定以上の数値（血糖値が 160~180 mg/dl）を超えたときなどに糖が尿中に排出されます。尿糖が陽性ならば直前の食事で高血糖になっていた可能性があります。

尿ケトン 基準値【陰性 - 】

栄養を十分にとれていないときや脂質が肝臓で代謝されるときに尿中に排出されます。陽性が出たときは糖尿病が悪化しているとき、高熱や嘔吐下痢などの体調不良、急激なダイエット、アルコールの過剰摂取などが考えられます。体調が良い状態でのケトンは減量ペースの目安になります。

尿潜血 基準値【陰性 - 】

尿に血液が混ざっているか調べる検査です。一時的な潜血はよくありますが継続してみられる場合は尿管や尿道に異常がある可能性があります。異常があった場合は尿管結石、急性、慢性腎炎、腎や尿管、尿道などの腫瘍が考えられます。

尿亜硝酸塩 基準値【陰性 - 】

腎臓や、膀胱での細菌感染がおこることで陽性となります。膀胱炎や腎盂腎炎などの尿路感染症のスクリーニングに用いられます。ただし、採尿してから検査まで時間があくと細菌が繁殖してしまい、偽陽性が出る可能性があります。

★尿検査を受診後にとるのが難しい方はご自宅で採取できるように尿スピッツお渡し出来ますのでその際は看護師まで。